

キーワード ボランティアのコーディネーター、救急情報ネックレス、生活協同組合

生活協同組合による「地域の絆」創生プロジェクト

愛知県 豊橋市

【この事例の特徴】

生活協同組合が主体となり、高齢者が暮らしやすい地域コミュニティの再生を目指すとともに、高齢者自身が有する知識や能力を活かして地域の中で相互に支援し合える共助の仕組みを構築し、希薄になりがちな「地域の絆」の創生をするための事業を実施している。

地域概要

総人口:	379,678 人
65 歳以上人口:	81,751 人(21.5%)
75 歳以上人口:	37,863 人(10.0%)
要介護要支援認定者数:	11,502 人(14.1%)
地域包括支援センター数:	18 ヲ所
第 5 期介護保険料:	4,300 円



背景・経緯

【経緯】

- 生活協同組合コープあいちでは、市内 18 ヲ所の包括支援センターの内 2 ヲ所を受託している。
- 国の目指す地域包括ケアシステムの構築に向けたモデル事業について、コープあいちの地域包括支援センターが市から依頼を受けて実施することになった。

【モデル事業のわらい】

- 地域の互助の取り組みとして、生活支援サービスを創造していくことを目的としている。
- 具体的には、高齢者が安心して住み慣れた自宅で生活を継続できるよう、高齢者世帯の実態調査等から高齢者のニーズや地域の特性を把握し、高齢者が暮らしやすい地域コミュニティの再生を目指すとともに、高齢者自身が有する知識や能力を活かして地域の中で相互に支援し合える共助の仕組みを構築し、希薄になりがちな「地域の絆」の創生をすることを目指している。

取り組み内容と方法

【概要】

- 地域包括支援センターに配置したコーディネーター(社会福祉士)が中心となり、地域住民や大学、ボランティア等と協働し、平成 25 年度から 26 年度にかけて、以下の1)～3)の事業を実施する。
- 事業実施にあたっては、地域包括支援センターが事務局となり、2 つの担当小学校校区(岩田校区・豊校区)でモデル事業の検討会(自治会、民生委員、老人会、地域の福祉ボランティアからなる 10 名の委員会)で実施内容の詳細を検討した。

1) 高齢者世帯への生活実態調査(アンケート調査)の実施

校区にお住まいの高齢者世帯にアンケート調査を郵送し、高齢者の現状やニーズ把握などを行う。

2) 高齢者が相互に支援し合う仕組みの構築と効果検証

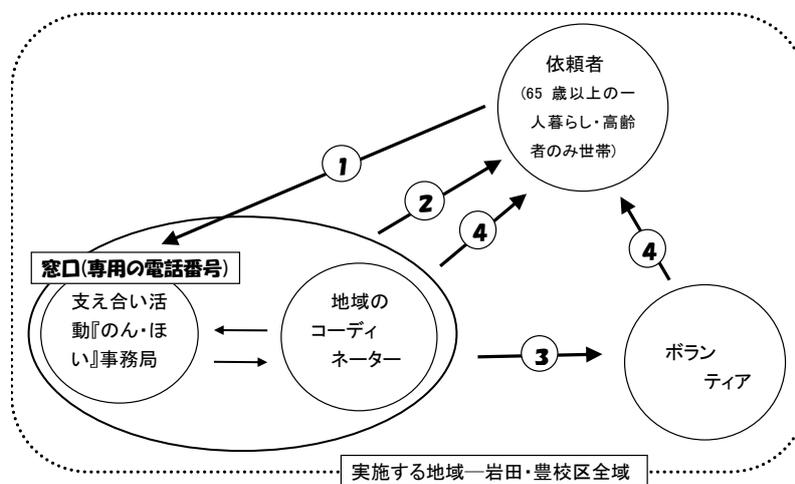
高齢者や地域住民が持つ知識や能力を活かして、高齢者が感じている「困った」を支援し、地域の中でお互いが助け合える仕組みを構築する。また、その効果を検証する。

【「困った」の一例】 ○ペットの世話 ○庭の手入れ ○ゴミ出し ○将棋や囲碁の相手 など

3) 救急情報ネックレス事業の運用と効果検証

外出先で万が一の事態になった場合に、救急隊がすみやかに情報を把握できるよう、本人の医療情報や緊急連絡先を登録し、その情報の番号を付したネックレスを配付し、事業の効果を検証する。

4) 現在決まっている支え合い活動『のん・ほい』の仕組み



①依頼

- ・ 『のん・ほい』事務局に置いてある携帯電話へ依頼
- ・ 事務局は受付表(依頼書と一体型)に記入し、地域のコーディネーターへ FAX する

②訪問・聞き取り・依頼内容確認

- ・ 地域のコーディネーターか『のん・ほい』事務局のどちらかで訪問 (依頼書作成)

③ボランティアに依頼

- ・ 地域のコーディネーターと『のん・ほい』事務局が登録ボランティアの中から探す

④お手伝い

- ・ 初回は地域のコーディネーターか『のん・ほい』事務局がボランティアに同行 (特に家の中に入るお手伝いは、些細なことでも必ず二人一組で行動)
- ・ 同じところ同じ内容での2回目・3回目は、ボランティア一人での活動もあり

⑤報告

- ・ ボランティア終了後、報告の電話を『のん・ほい』事務局にかける

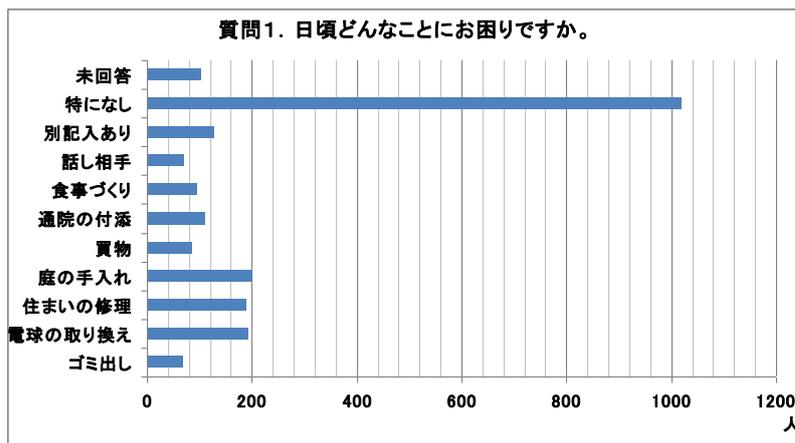
【自治体としての関わり】

- 地域包括支援センターと市役所で毎月事務局会議を開催して、市からはモデル事業への指導、地域検討会、説明等へも市役所から課長補佐・主査等が参加している。

取り組みの成果と課題

【成果】

- アンケートは2013年夏に実施した。(送付数2,829枚、回収数1,551枚、回収率は54.82%)
結果の一部は、下記のとおり。「質問1. 日頃どんなことにお困りですか。」では、6割以上が「11. 特に困っていることはない」と回答したものの、他の選択肢では、「4. 庭の手入れ・草取り」(13.0%)・「2. 電球の取り換えや家具の移動」(12.4%)・「3. 住まいのちょっとした修理」(12.2%)の順に高かった。



- 支え合い事業は2014年2月から実施予定。半年間かけて、地域での支え合い活動の意義を説明し、賛同を広げてきた。秋からボランティアコーディネーターの募集を開始、2013年12月からボランティアも募集し、間もなく開始予定である。
- 緊急ネックレスの100名への配布は12月から開始した。
- 中心事業である支え合いの事業がこれから本格実施であり、全体評価はまだできない。しかし、半年間かけて地域で支え合いモデル事業の意義を検討会、説明会を通して広げることができたことそのものとそのプロセスに価値があると考えている。
- 新たなボランティアコーディネーターに手を上げていただいた人達を中心に新たなネットワークが創造されようとしている。2年間のモデル事業後に地域の人たちがどのような選択をして、この支え合い事業を大きく育てていくのか大変期待をしている。有償ボランティアの形態とするのか、様々な意見が出ているが1年後(2014年秋)に1年間の実践を元に方向性を出すことにしている。

【課題】

- 旧来の保守的な組織(自治会、老人会など)との別に自主的なボランティア組織をつくらうとする場合に、既存の形から全ての考えをスタートする人たちと柔軟に考えていこうとする人達との調整が難しい。

参考 URL、連絡先

- 生活協同組合コープあいち 福祉事業本部
<http://www.coop-aichi.jp/>
0533-85-4783